

人と自然、人と人、世代と世代をつなぐ

「聞き書き甲子園」は、高校生が農山漁村に暮らす「名人」を訪ね、その知恵や技術、生きざまを「聞き書き」し、発信する活動です。

「名人」は、林業、炭焼き、木工職人、漁師など、自然と向き合い、地域の暮らし、文化、伝統を守りながら仕事を続けてきた方たち。その多くは、高校生の祖父母にあたる世代です。一方、高校生は、北海道から沖縄まで全国から参加します。高校生は一人ひとりで、各地域の「名人」を訪ね、インタビューし、その言葉を一言一句、書き起こして作品をまとめます。

「名人」の「聞き書き」を通して、高校生は「働くこと」や「生きること」を学びます。まるで本当の祖父母と孫のように「名人」との交流がつづく高校生がいます。大学生や社会人となって、農山漁村に1・Uターンし活躍する卒業生もいます。皆さまの地域でも、「名人」を推薦し、「聞き書き」する高校生を受け入れてみませんか。

「聞き書き甲子園」では、毎年、同事業にご協力いただく市町村（地域）を公募し、開催しています。

「自然と向き合う仕事の大切さ」や「地域ごとに特色ある生活文化の豊かさ」を広め、未来を担う次世代を育成するとともに、ご協力いただいた地域には、長年にわたり育まれてきた「なりわい」や「生活文化」を再認識し、地域の未来を共に考える「場」を提供できればと考えています。同事業の趣旨にご賛同いただき、皆さまのご協力を賜えますと幸いです。

聞き書き甲子園実行委員会

（農林水産省、文部科学省、環境省、公益社団法人国土緑化推進機構、NPO 法人共存の森ネットワーク）



聞き書き甲子園 協力市町村（地域）

公募概要

公募対象 市町村（地域）

- 令和5年度「第22回聞き書き甲子園」において、高校生の「聞き書き」の対象となる6～8名の「名人」(*)を推薦いただくことが要件となります。

(※)「名人」は、林業、水産業、工芸など、森・川・海など地域の自然とかわる仕事に長年従事し、先人からの知恵や技、心を受け継いできた概ね60歳以上の方を想定しています。

- 市町村を窓口として「地域団体」(*)が実質的な主体として申請することや、複数の市町村が連名で申請することもできます。

(※)ここでいう地域団体とは、地域自治組織や市民活動団体、事業協同組合等をさします。

- 選定された「名人」には、令和5年8月下旬以降に、高校生の「聞き書き」取材にご協力いただきます。「聞き書き」する高校生の旅費等は、主催者（聞き書き甲子園実行委員会）が負担します。

公募期間 令和4年5月10日（火）～9月2日（金）17時必着

公募要領

「協力市町村（地域）公募要領」に定める申請書（様式1）及び申請地域概要説明書（様式2）を聞き書き甲子園事務局宛に郵送又はメールに添付し提出してください。詳しくは下記URLより公募要領をご確認ください。

聞き書き甲子園 <https://www.kikigaki.net/>

選定結果 令和4年10月末までに文書により通知します。

名人の推薦

選定された市町村（地域）には、令和5年1月末までに「名人」を推薦いただきます。
※上記サイトに「名人推薦要領」を掲載しています。
あわせてご確認ください。

応募先・お問い合わせ

〒156-0043 東京都世田谷区松原1-11-26-301
NPO 法人共存の森ネットワーク内
聞き書き甲子園実行委員会事務局
TEL：03-6432-6580 FAX：03-6432-6590
E-mail：contact@kikigaki.net

今しか聞けない話がある。



働くこと、生きること、地域への想い

第22回 聞き書き甲子園

協力市町村（地域）公募のご案内

【主催】聞き書き甲子園実行委員会（農林水産省、文部科学省、環境省、公益社団法人国土緑化推進機構、NPO 法人共存の森ネットワーク）【募金・企業寄付】株式会社ファミリーマート【協賛・協力】一般財団法人環境文化創造研究所、公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会、富士フィルムホールディングス株式会社、株式会社長塚電話工業所、株式会社トンボ、京王電鉄株式会社、株式会社ティムコ、公益財団法人SOMPO環境財団、株式会社ベネッセコーポレーション【後援】総務省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、一般社団法人全国過疎地域連盟、NPO 法人「日本で最も美しい村」連合

あなたも、コンビニに、

ファミリーマートは「夢の掛け橋募金」を通じて、この活動を応援しています。





第22回

聞き書き 甲子園 の流れ



協力市町村 (地域)の声

「聞き書き甲子園」の開催は、各市町村の農林水産課をはじめ、生涯学習課、地域振興課等にご協力をいただいています。また、地域団体と連携し、ご協力いただいた地域もあります。

● 第18回(12地域) ● 第20回(11地域) ● 第21回(14地域)
※第19回開催は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中止しました。

新潟県柏崎市

「聞き書き」は、それぞれの作品ができる以上の成果がありました。高校生の純粋でまっすぐな質問は名人の心の奥に届きます。名人は深く自らの心の中にもぐり、答えを探します。名人は、「聞き書き」を通じて人生の棚卸をしているようでした。生きてきた道を振り返る名人の顔はとても穏やかです。そのような名人の姿を見ることで、高校生もまた自分の人生を深く考えるきっかけとなりました。参加したことが進路を決めるきっかけとなった高校生もいました。

(新潟県柏崎市市民活動支援課・特定非営利活動法人 aisa)

宮崎県都城市

都城市立図書館は、全国の聞き書き作品を収集していく方針の下、「聞き書きコーナー」をつくっています。図書館の運営理念は「ひとりひとりが《だいじなもの》をみつめていくために」としていますが、「聞き書き甲子園」はまさに名人たちの仕事や暮らしの中から《だいじなもの》をみつめていく機会になったのだらうと思います。高校生に連れられて名人ご夫妻も図書館にいらっしました。ひとびともつなげていく素敵な取り組みです。

(宮崎県都城市生涯学習課・都城市立図書館)

栃木県鹿沼市

「木のまち鹿沼」を支える「名人」の想いととも、地域の歴史を伝えられる素晴らしい機会をいただきました。今回はオンラインでの取材となりましたが、高校生と共通の趣味で話が盛り上がり、終始笑い声が聞こえる楽しい聞き書きが行われ、参加して本当に良かったと感じています。

「その生業は自分の一部」と話す名人のひとつひとつの言葉が、人生の岐路に立つ高校生の背中を押してくれました。彼らにも生きがいのような仕事が見つかることを願っています。

(鹿沼市経済部林政課)

大分県国東半島・宇佐地域

「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」は、平成25年に世界農業遺産に認定されました。この地域の営みを未来に伝える取り組みの一つとして、農林水産業に真摯に向き合う人々の姿を高校生に知ってほしいと考え、地元の高中生による「聞き書き」の活動を続けています。今回は全国の高校生が名人の知恵や技術のみならず、それぞれの想いをも受け止めてくれたに違いないと、彼らの今後に期待しています。(大分県農林水産企画課 世界農業遺産推進班)

2022 [令和4年]

5月

協力市町村(地域)を公募

応募書類を提出ください。
10月末までに採択結果を通知します。

9月

11月以降

高校生が取材する「名人」を推薦

地域の「名人」※6~8名をご推薦ください。
※推薦いただく「名人」は、林業、水産業、工芸など、森・川・海など地域の自然とかかわる仕事に長年従事し、先人からの知恵や技、心を受け継いできた概ね60歳以上の方を想定しています。

2023 [令和5年]

5月中旬

推薦いただいた「名人」の人数に応じて全国の高校生を募集

高校生の募集とあわせて、協力市町村(地域)決定のプレスリリースを行います。

8月中旬

研修会への参加

参加高校生の研修会を開催します。各市町村(地域)担当者は、1泊2日でご参加ください。「聞き書き」する高校生と「名人」のマッチング等を行います。

8月下旬

高校生による「聞き書き」取材のサポート

「名人」の取材は、原則として高校生が一人で行います。取材日は、事前にお知らせしますので、必要に応じてサポートをお願いいたします。

高校生の「聞き書き」と作品づくりの期間

12月下旬

「聞き書き作品」の内容を確認

「作品集」を製作するにあたり、高校生が提出した作品内容をご確認いただけます。

2024 [令和6年]

3月下旬

フォーラム(成果発表会)への参加

優秀作品には大臣賞等を授与します。参加高校生は、取材した地域ごとに成果発表を行います。当日は「名人」の代表者数名もご招待し、登壇いただきます。各市町村(地域)の皆さまも、当日、ご参加ください。

4月下旬

「聞き書き作品集」を配布

参加した高校生のほか、関係機関等に「聞き書き作品集」を配布します。各市町村(地域)には、「名人」の人数分プラス10冊を贈呈させていただきます。また、作品データをお渡しいたしますので、広報等にご活用ください。

5月

協力市町村(地域)による地域発表会の開催(任意)

市町村(地域)単位の地域発表会の開催をご検討ください。開催にかかる費用の一部は実行委員会が補助します。

12月



自然と共に暮らしている名人は、とてもかっよくて、楽しそうで、私の憧れです。温かい笑顔で「北海道の孫じゃ」と言ってもらえたことは一生の宝物です。

(北海道・立命館慶祥高等学校2年)

いろんな働き方があって、私たちはそれを選べるということ、それをどう楽しむかは自分次第だということ、そんなあたり前なことが、心にすんと入ってきました。取材期間・時間は限られていましたが、社会の見方が変わり、かたよった考えだった自分自身を知ることができました。

(神奈川県・中央大学杉並高等学校3年)

おそらく参加しなければ一生経験しなかったであろう海の名人との1対1の対話は、これまでスマホのなかで凝り固まっていた私の世界を、大きく押し広げてくれたように感じました。

(宮城県・聖和学園高等学校2年)

現在、私は高校で森林や林業について学んでいます。今回、名人と出会えたことで、知識や技術の向上はもちろん、新たな価値観や考え方を学び、その生きざまから私自身の生き方について考えることができました。尊敬できる名人に出会えたことは、これからの人生の大きな財産です。

(熊本県立南陵高等学校2年)

地域創生については、本では理解していたのですが、そこにどんな人がいて、地方はどう動いているのかを考えたことがありませんでした。名人の想い、地域への愛。結局、カタチではなく、人なんだと強く気づくことができました。

(大阪府・大阪星光学院高等学校2年)

参加高校生の声